

文化財学習会

ふるさと探訪

テーマ **木太町の海中散歩～古・高松湾を巡る～**

講師 高上 拓（高松市文化財課）

日時 平成30年6月24日（日）



共 催

高松市歴史民俗協会

高松市文化財保護協会

高松市教育委員会

目次

- 1 古・高松湾と木太町周辺
・
・
・
1
- 2 木太町周辺に残る湾岸の遺跡
（八坂神社・木太中村遺跡・白山神社古墳・神内城跡・向城跡）
・
・
・
4
- 3 古・高松湾の開拓
（夷神社・下往還・増田三代の墓・西嶋八兵衛頌徳碑・）
・
・
・
9
- 4 古・高松湾が形成した世界
（古代の木太郷・三甕ヶ渚と清水神社の甕塚）
・
・
・
13

1 古・高松湾と木太町

古・高松湾とは

高松城跡と庵治岬を突端とし、大きく南に湾入した巨大な入江のことを、古・高松湾と呼びます(図1)。新川・春日川・香東川などの河川交通を通じて、高松平野と瀬戸内海の物流を中継する交通の結節点にあたり、湾の西側には野原・東側には方本という中世の港町が形成されたことから、海上交通の要衝であったことがうかがえます。木太町の林道周辺はこの湾の南岸部に相当します。現在の林道周辺はかなり内陸に位置しますが、これは江戸時代以降の干拓によるものです。今回のふるさと探訪では、「木太町の海中散歩」と題して、古高松湾が陸地化した過程を辿ります。海が媒介となり成立していた地域社会が、どのように変化して現在に続いているのか、連続と断絶の痕跡を追跡したいとおもいます。



図1 古・高松湾(松本2009より)

木太町の地形

木太町は高松平野の北端に位置します。東から春日川、詰田川、御坊川などの河川が北流し、町域の南部は扇状地性の平野で、北部は海に堆積した三角州や人工的な海の埋め立て地にあたります。このため北部は標高が極めて低く、平成十六年の高潮では、大きな浸水被害を受けました。これは、一見して平坦地であるこの地区がかつて古・高松湾と呼ばれた入江を埋め立てた低地であることを示す事例です。



図2 木太町防災ハザードマップ

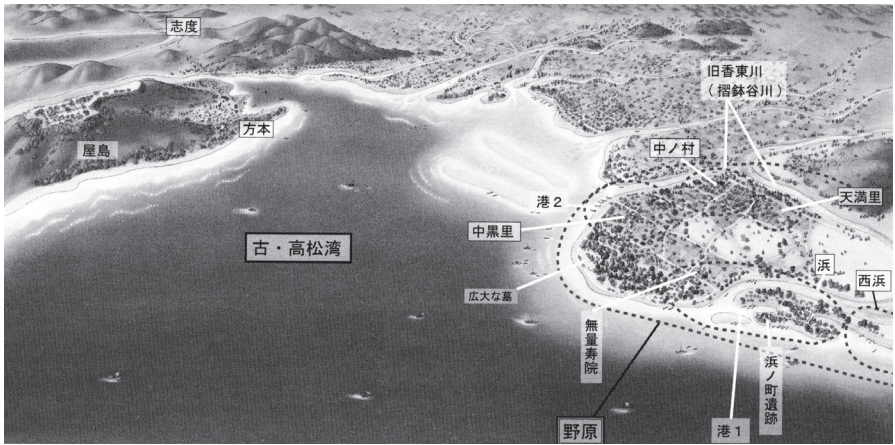


図3 古・高松湾 イラスト (香川県立歴史博物館 2007)



図4 木太町周辺の埋蔵文化財包蔵地分布図

2 木太町周辺に残る湾岸の遺跡

長尾街道よりも北側の範囲には、埋蔵文化財包蔵地（Ⅱ遺跡）が確認されていません（図4）。これは、基本的に中世以前の生活の痕跡を遺跡として登録しているためですが、空白域は古高松湾の範囲と概ね合致しています。今回は湾を取り囲む範囲に展開する遺跡・旧跡を巡りたいと思います。

八坂神社

八坂神社は木太町本村に所在する神社で、明治時代までは入江神社と呼ばれる、木田郡の大社でした。元禄六（一六九三）別当寺である真福寺の僧龍宣が記した「入江神社記」によると、正暦元（九九〇）年、尾張から牛頭天王が甕とともに楠のいかだに乗って漂着し、神の現れた地として祠を建てたのが八坂神社の始まりとされます。当地がかつて古・高松湾に面した入江であったことを示す伝承です。



写真1 八坂神社拝殿（真福寺から移築）

木太町の由来

木太という地名がはじめて確認できるのは、延長年間（九二三〜九三二）の『和名抄』で、讃岐国山田郡の一郷として「喜多」と記されます。地名の由来として、八坂神社の縁起に、牛頭天王が乗ってきた楠のいかだが芽を出し、瑞兆として「喜多」としていたが、そのうち木が太く育ったので「木太」とした、という記載があります。また、屋嶋城の城田であったことが由来であるとする説もあります。

木太中村遺跡

福岡三谷線の工事に伴って発掘調査された遺跡で、弥生時代から江戸時代までの遺跡が確認されました。重要な成果としては、弥生時代後期の遺構・遺物が確

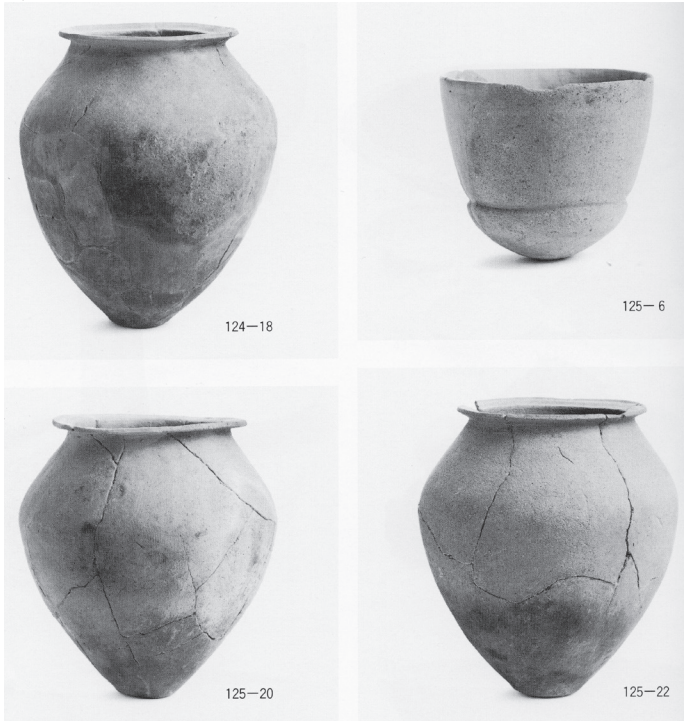


写真2 北中村遺跡出土弥生土器

認められたことが挙げられます。弥生時代当時の海岸線は少なくともこの遺跡よりも北側に位置したことを示す確実な証拠です。また、中世には樟葉型の黒色土器と呼ばれる、大阪産の土器が出土しており、瀬戸内海を通じた流通の一端を示す資料です。現在は道路となっており、多くの車両が遺跡の上を行きかっています。

白山神社古墳

白山神社古墳は木太南小学校の東側に位置する古墳で、現在は古墳の上に白山神社が祀られています。高松市教育委員会の発掘調査で、直径十一〜十二mの円墳であることが分かりました。また、盗掘により副葬品は残っていませんでしたが、埋葬施設（竪穴式石室）が確認されました。白山神社古墳は標高二〜三m程度の低地に位置します。古・高松湾の沿岸部を行き交う人々に対して見せるモニュメントとして築かれたものと考えられます。



写真3 木太中村遺跡（右端がことでん長尾線鉄道駅付近）

向城・神内城・松縄城

向城は木太町向井に所在する中世の城跡で、向井城あるいは真鍋城といった呼称もあります。現地には土塁状に一段高い地形が残っており、城の一部であったと考えられます。城主は真鍋氏で、戦国時代の当主真鍋祐主（すけぬし）・祐重（すけしげ）親子は、香西氏の配下として活躍しました。特に子の祐重は長宗我部氏の讃岐侵攻や、朝鮮出兵で武功を挙げたことが記録に残っています。「南海治乱記」によると、向城は溝と堀で囲まれた堅固な城であったこと、出陣に際しては300人を率い、近畿地方へ出兵するときは200人、讃岐の中ならば500人を動員可能であったことなどが記されています。

神内城は別名木太城ともいい、現在の木太南小学校周辺が城跡であったと想定されます。小学校の南を流れ



写真4 白山神社古墳の竪穴式石室

る宮川は鍵形に曲がっており、かつて堀跡として利用されたと考えられています。城主は植田氏の一族神内氏であり、戦国時代には神内景之・清定親子が十河氏に属していました。神内氏の本拠地はもともと西植田でしたが、十河氏の配下であった時、植田に三百石、木太本村に七百石を領し、木太町の領地の方が多くなつたため、移住してきたと言われています。神内城周辺は東に真鍋氏の向城、西に宮脇氏の松縄城と、香西氏配下の武将の城の間に築かれています。非常に狭い範囲に複数の勢力が入乱れる状況は、古・高松湾の湾岸の掌握を巡る主導権争いが背景に存在した可能性が考えられます。



図5 神内城跡推定範囲図 (香川県教委 2003)



図6 湾岸周辺の城跡

植田に三百石、木太本村に七百石、木太町の領地の方が多くなつたため、移住してきたと言われています。神内城周辺は東に真鍋氏の向城、西に宮脇氏の松縄城と、香西氏配下の武将の城の間に築かれています。非常に狭い範囲に複数の勢力が入乱れる状況は、古・高松湾の湾岸の掌握を巡る主導権争いが背景に存在した可能性が考えられます。

3 古・高松湾の開拓

古・高松湾の入江であった木太町の北部が、現在のように陸地化するのは江戸時代以降のことです。戦国時代が終焉し、侵攻による支配領域の拡大が不可能になると、近世大名のベクトルは領内の開拓に向かいます。

木太町の干拓は生駒期にはじまります。河川の上流の治水で堤防がきずかれ、土砂がより下流に集中することで遠浅の干潟ができ、さらに防潮堤を築くことで内側の干拓が進められました。寛永一四（二六二七）年に上福岡町から木太町を経て春日町に至る防潮堤を築き、遠浅の干潟を干拓して新田を拓きました。讃岐の各所で治水工事に関与した西嶋八兵衛がこの工事にも携わったとされます。

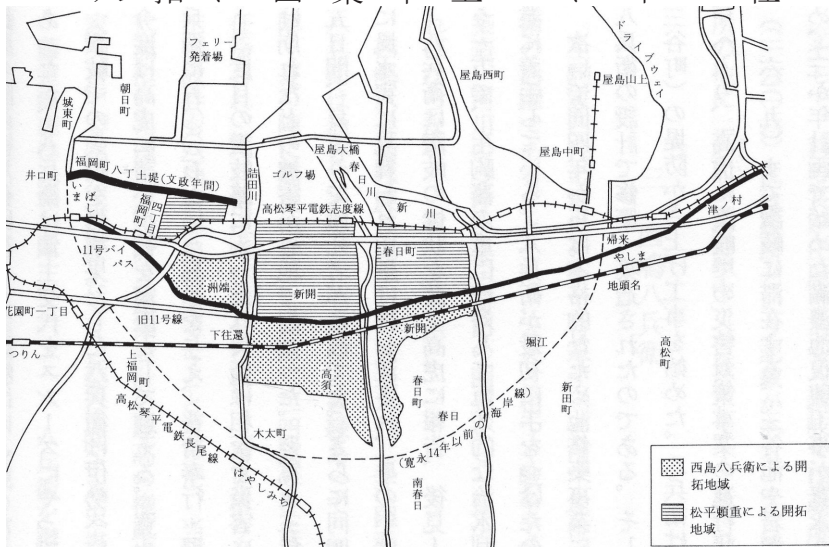


図7 干拓の概要（木太町郷土誌を作る会 1995）

松平期の寛文七（一六六七）年にはさらに松島から西潟本に至る新たな堤防（コトデン志度線の南側）を築き、さらに新田を拓かれました。明治時代には北側に塩田が拓かれ、現在の木太町の北端となっています。このように、近世以降の干拓により、古高松湾は次第に埋め立てられ、湾岸の地形が木太町から失われていったことがわかります。

干拓の痕跡を示す木太町の地名（図8）

長尾街道の北側には、夷、高須、洲端、新開という字名が残っています。いずれも沿岸部であったかつての地形や新たな開拓地であることを示しており、木太町北部の地形の変遷を物語る証拠です。

夷神社

長尾街道に面した字「夷」に位置する神社。『全讃史』には、何年に創建された

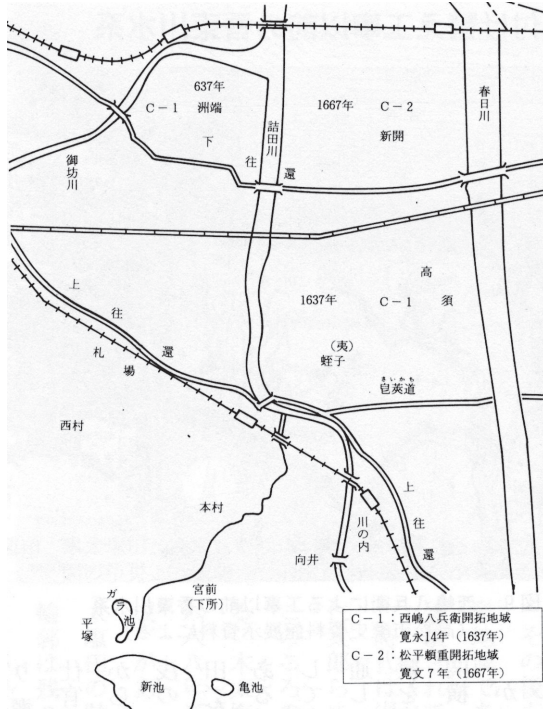


図8 周辺の字名と干拓（木太町郷土誌を作る会 1995）

のか定かではないが、寛永以前はこの地は入江で漁業者が住居し、夷神社があること、寛永一四（一六三七）年にこの地以北を干拓したことが記されています。神社には片手に鯛を抱えた恵比寿像が祀られています。干拓以前の、漁労が可能であった沿岸部の痕跡として現在も維持されています。

増田三代の墓

昭和五二（一九七七）年に発見された、増田休意親子三代の墓である。菊池武信は、松平頼重・頼常に仕えて讃岐の史跡を調査した。増田正宅（まさいえ）は武信の次男で、奉行職を務めたが木太町に隠棲し、史跡の調査を続けた。増田雅宅（もといえ）休意は、祖父と父の調査成果を引き継ぎ、『三代物語』『新撰玉藻集』を著した。休意の弟の菊池武賢（たけまさ）は、『三代物語』を『翁媪夜話（おううやわ）』に改変し、五代藩主頼恭（よりのたか）に献上したところ、『讃州府志』の題名を下付された。なお、菊池武賢は菊池寛の祖先にあたる。

下往還

木太町周辺の干拓のために、寛永十四（一六三七）年に築かれた堤防跡を整備し、慶安元

(1648)年に開通した東讃浜街道(志度街道とも)の別名です。東讃浜街道は、高松城下の常盤橋く松島く爪田川く春日川く牟礼く志度く津田く鶴羽く町田く三本松く白鳥く引田く馬宿を通る街道です。なお、上往還は長尾街道を指す。現在の県道牟礼中新線沿いの旧道にあたります。現在では平地化しており、堤防の痕跡をみることはできません。

西嶋八兵衛頌徳碑

木太北部会館の前庭に平成五年に建てられた石碑です。地域の成り立ちが新田開発にあることを住民の方々が記念し、未来に継承するために造られた新たなモニュメントです。

西嶋八兵衛

慶長元(一五九六)年、遠江の生まれ。藤堂高虎の家臣で元和七(一六二一)年、生駒藩に派遣され、後に高松藩家臣となります。普請奉行・郡奉行に任命され、各地の治水・利水工事に従事しました。

4 古・高松湾が形成した世界

古代の木太郷

『和名抄』には、古代の讃岐の郡として、大内・寒川・三木・山田・阿野・鶴足・那珂・多度・三野・刈田の十一郡が置かれたことが記されています。木太町はこのうち山田郡にあたります。また、山田郷には殖田・池田・坂本・蘇甲・三谷・田井・拝師・本山・高松・宮所・喜多の十一郷で構成されており、喜多郷には木田村・夷村・瀧元村の3村で構成されていたことが



図9 高松市の古代の郷名 (渋谷 2009)

判っています。喜多郷はもともと餘部だった部分が新たに郷になったもので、人口増加に伴い新たに郷が成立した地域だといえます。ここで注目したいのは、木太町と屋島西町の鴻元が同じ郷に編成されている点です。現在の交通網や都市計画においては、異なる行政区分がなされており、その懸隔は決して小さなものではないように感じますが、当時の人々にとってはこれが当然の行政区分であったのでしよう。こうした古代の行政区分は、やはり古・高松湾を巡る地域社会が形成されていたことを如実に示す証拠だと思われまます。なお、同じ山田郡の高松郷も、古高松村・新田村・東鴻元村で構成されており、近接したであろう鴻元村と東鴻元村が異なる郷に属していたことが判ります。これも当時の地域社会の領域を考える上で重要な点になると思われまます。陸地の連続性よりも、水運を介した地域の結束が重視された結果と考えることができるのではないでしようか。

三甕淵と清水神社の甕塚

御坊川と詰田川の合流地点にあたり、別名デンデン淵とも呼びまます。三甕淵の名称は、景行天皇の皇子神櫛王が讃岐の国司として赴任した際、船が嵐でこの場所に流され、難破しそうになったが、神櫛王は宝の甕3つを海中に沈め、荒れ狂う海を鎮め、無事に上陸したとす

る伝承に由来します。木太町北部が沿岸交通の要衝であったことを示すエピソードです。また、春日川を上流に遡った川島町の由良山麓に所在する清水神社では、甕を用いた雨乞い神事が行われていますが、この神事に用いる甕が三甕淵から出土したという伝承もあります（『全讃誌』）。沿岸部から河川交通を媒介に内陸部との通行があったことを示唆する事例です。

清水神社の雨乞い神事

清水神社の境内に甕塚があり、中に甕洗い神事で用いる甕が埋納されている。干ばつに際した雨乞い神事が不定期に行われており、最も新しくは平成24年に実施されている。甕塚内部の調査の結果、現在甕塚の中には2口の甕が収められており、甕は7世紀頃に遡る須恵器の大甕である事が明らかとなった。



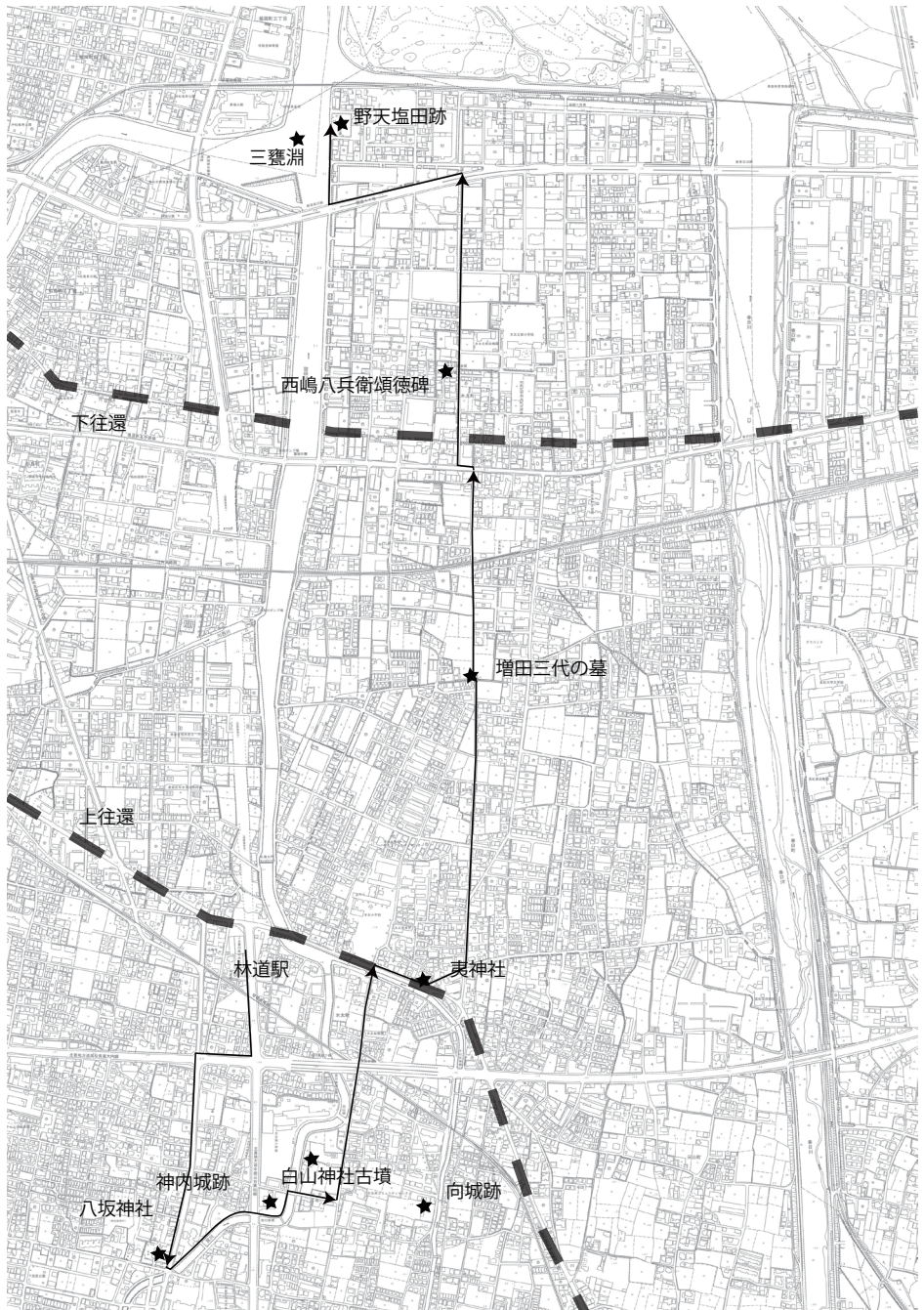
写真5 清水神社の甕塚出土の須恵器大甕

参考文献

- 松本和彦二〇〇九「野原の景観と地域構造」『中世讃岐と瀬戸内世界 港町の原像 上』岩田書院
- 渋谷啓二二〇〇九「古・高松湾と瀬戸内世界」『中世讃岐と瀬戸内世界 港町の原像 上』岩田書院
- 木太町郷土誌を作る会一九九五『木太町郷土誌』
- 香川県教育委員会二〇〇三『香川県中世城館跡詳細分布調査報告』
- 高松市教育委員会二〇〇一『木太中村遺跡』
- 高松市教育委員会二〇〇一『神内城跡』
- 高松市教育委員会二〇〇五『木太町神内城跡〜第2次調査〜』
- 高松市教育委員会二〇〇七『白山神社古墳』
- 高松市教育委員会二〇一七『清水神社の甕塚調査報告書』



写真5 清水神社の甕塚石室



6月24日（日）復路

◆ことでん志度線 沖松島駅

◎（瓦町方面）

沖松島駅（12：08 発、12：28 発、12：48 発）

◎（琴電志度・大町方面）

沖松島駅（12：13 発、12：33 発、12：53 発）

次回のふるさと探訪は…

テ ー マ 「六萬寺周辺を訪ねる」（予定）

と き 平成30年9月23日（日）9：30～正午頃

集合場所 未定

講 師 小川 太一郎さん（高松市文化財保護協会副会長）

☆公共交通機関を御利用ください。

☆広報「たかまつ」9月15日号に開催案内を掲載しております。

☆小雨決行。当日、警報が発令された場合は、中止とします。

なお、中止かどうか御不明な場合、午前7時30分～9時30分に文化財課（Tel 087-839-2660）でお知らせします。

（電話が通じない場合は実施予定ですので、集合場所にお集まりください。）

「ふるさと探訪」に参加される皆様へ

※参加中は、次のことに充分留意し、意義のある探訪としましょう。

- 1 交通ルールを守り、交通安全を心がけましょう。
(必ず歩道を歩き、歩道が無いところでは、道路の端を一列で歩きましょう。)
- 2 無理をせず、体調には十分気を付けましょう。
- 3 引率者の指示に従い、整然と行動しましょう。
- 4 マナーを守り、他人に迷惑がかからないよう気をつけましょう。
- 5 文化財や自然を大切にしましょう。